CASBEE-建築(新築)2024年版

(仮称)相模原市緑区西橋本二丁目計画　新築工事

■使用評価マニュアル, CASBEE-建築(新築)2024年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**2.9**
Q1 室内環境			**0.40**		-	**3.5**
1 音環境		**3.0**	0.15	**3.2**	1.00	**3.1**
1.1 室内騒音レベル	―	**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
1.2 遮音		**3.0**	0.50	**3.4**	0.50	
1 開口部遮音性能	住居[T-2]採用	3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	―	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	―	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	―	-	-	2.0	0.20	
1.3 吸音	―	-	-	-	-	
2 温熱環境		**2.6**	0.35	**4.0**	1.00	**3.8**
2.1 室温制御		**3.0**	0.50	**4.0**	1.00	
1 室温	―	3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	住居[等級5]	3.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性	―	-	-	-	-	
2.2 湿度制御	―	**1.0**	0.20	**-**	-	
2.3 空調方式	―	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		**2.0**	0.25	**3.6**	1.00	**3.4**
3.1 昼光利用		**1.8**	0.30	**4.0**	0.30	
1 昼光率	住居部掃き出し窓の採用	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口	―	-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	―	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		**1.0**	0.30	**4.0**	0.30	
1 昼光制御	住居：洋室ｶｰﾃﾝ設置、庇(ﾊﾞﾙｺﾆｰ)設置にて昼光制御	1.0	1.00	**4.0**	1.00	
3.3 照度	―	**3.0**	0.15	**3.0**	0.15	
3.4 照明制御	―	**3.0**	0.25	**3.0**	0.25	
4 空気質環境		**3.6**	0.25	**3.6**	1.00	**3.6**
4.1 発生源対策		**4.0**	0.60	**4.0**	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材ほぼ全面的に採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		**3.0**	0.40	**3.0**	0.38	
1 換気量	―	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	―	-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	―	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視	―	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	―	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		―	**0.30**	**-**	-	**2.7**
1 機能性		**2.8**	0.40	**2.6**	1.00	**2.6**
1.1 機能性・使いやすさ		**4.0**	0.40	**3.0**	0.60	
1 広さ・収納性	―	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	―	-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準を満たす	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		**1.0**	0.30	**2.0**	0.40	
1 広さ感・景観	―	-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	―	-	-	-	-	
3 内装計画	―	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		**3.0**	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	―	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	―	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		**2.8**	0.30	-	-	**2.8**
2.1 耐震・免震・制震・制振		**3.0**	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	―	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	―	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**2.8**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	―	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	―	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	―	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	―	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水はVP管(B),排水は一部鋼管(C),通気はVP管(B)	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	―	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		**2.6**	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	―	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	―	2.0	0.20	-	-	
3 電気設備	―	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	―	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	―	2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
	3.1 空間のゆとり			-	-	2.6	0.50	
	1	階高のゆとり	–	-	-	3.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	–	-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		–	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	–	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	–	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	–	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	–	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	–	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	–	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境（敷地内）			–	0.30	-	-	2.4
1	生物環境の保全と創出		–	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮		–	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		–	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		–	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性				-		-	2.7
LR1	エネルギー			–	0.40	-	-	2.6
1	建物外皮の熱負荷抑制		断熱等性能等級5	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用（直接利用）		–	2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化		–	2.0	0.50	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	集合住宅の評価			2.0	-	-	-	
4	効率的運用に向けた取組み			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	–	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	–	-	-	-	-	
	4.3	非化石エネルギーの導入の拡大	–	-	-	-	-	
	4.4	コミッショニングの推進	–	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	–	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	–	3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル			–	0.30	-	-	2.8
1	水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水		–	3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	–	3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	–	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
	2.1 材料使用量の削減		–	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		–	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		–	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		–	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		–	3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+LGS+仕上の構成としている(壁・天井)	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		–	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	–	-	-	-	-	
	2	発泡剤（断熱材等）	–	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	–	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境			–	0.30	-	-	2.9
1	地球温暖化への配慮		–	3.0	0.33	-	-	3.0
2	地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
	2.1 大気汚染防止		–	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		–	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	–	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	–	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	–	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	–	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	–	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	–	-	-	-	-	
	3	悪臭	–	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	–	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	–	-	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制	–	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	–	3.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	–	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2　サービス性能															
1.2.3 内装計画	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		–	○	–	–	○	–	–	○	–	–	–	–	–
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		–	–	–	–	○	–	○	–	–	–	○	○	–
2.4.1 空調・換気設備	–		○	–	–	–	–								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	–	○	–	–	–	–	–						
2.4.3 電気設備	1.0	–	–	–	–	○	–	–							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		–	–	○	–	–	–							
Q3　室外環境(敷地内)															
1　生物資源の保全と創出	2.0		–	–	2.0	–	–	–	–	–	–	–	–		
2　まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	–	–	–	–							
3.1　地域性への配慮、快適性の向上	2.0		–	–	1.0	–	–	1.0	–	–					
3.2　敷地内温熱環境の向上	9.0		–	1.0	1.0	2.0	1.0	–	–	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2　自然エネルギー利用(直接利用)	–		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
4.1.4 コミッショニングの推進	–		–	–	–	–	–								
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			–	–	–	–	–	–	–	–					
2.1　材料使用量の削減	–		–	–	–										
2.3　躯体材料におけるリサイクル材の使用			–	–	–	–	–								
2.6　部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	–	–	–									
3.1　有害物質を含まない材料の使用	–														
LR3 敷地外環境															
2.2　温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	–	–	–	1.0	–	–	1.0	3.0	–			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	–	1.0	–	–	–							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		–	1.0	1.0	–		–	–						
3.2.2 砂塵の抑制	–		–	–											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		–	2.0											

主な指標

Q1　室内環境

2.1.3 外皮性能
窓システムSC – 窓の日射熱取得率(η) –
U値(W/m2K) 窓システム – 屋根 – 外壁 – 床 –
住戸部分 窓システムU値 – 外皮UA値 – ηAC – ηAH –

3.1.1 昼光率
昼光率 3.7%

4.2.2 自然換気性能
自然換気有効開口面積率 –

Q2　サービス性能

1.1.1 広さ・収納性
執務スペース – /人 病床 – /床 シングル – ツイン –

1.1.2 高度情報通信設備対応
コンセント容量 – VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観
天井高 2.4 m

1.2.2 リフレッシュスペース
リフレッシュスペース – レストスペース –

2.2.1 躯体材料の耐用年数
想定耐用年数 – 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
想定必要間隔 – 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
想定必要間隔 – 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔
想定必要間隔 – 年

3.1.1 階高のゆとり
階高 – m

3.1.2 空間の形状・自由さ
壁長さ比率 –

3.2　荷重のゆとり
床荷重 – N/m2

Q3　室外環境(敷地内)

1　生物資源の保全と創出
外構緑化指数 – 建物緑化指数 –

3.2　敷地内温熱環境の向上
空地率 – 水平投影面積率 – 地表面対策面積率 – 舗装面積率 –

LR1　エネルギー

1　建物外皮の熱負荷抑制
BPI/BPIm – 断熱等性能等級 等級5 相当

2　自然エネルギー利用(直接利用)
影響範囲の割合 – 採光を満たす教室数 – 採光を満たす住戸数 –
通風を満たす教室数 – 通風を満たす住戸数 –

3　設備システムの高効率化
太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kWh

非住宅部分
BEI/BEIm 再ｴﾈ有 – 無 – ｵﾌｻｲﾄ再ｴﾈ有 – –

集合住宅
一次エネ削減率 再ｴﾈ有 0% 無 0% 仕様基準で評価する –

LR2　資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無
雨水利用率 –

2.4　躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
特定調達品目 – エコマーク商品 – 自治体指定の特定品目等 –

2.5　持続可能な森林から産出された木材
使用比率 –

3.2.1 消火剤
オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)
オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒
オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

LR3　敷地外環境

2.2　温熱環境悪化の改善
見付面積比 – 隣棟間隔指標Rw –
地表面対策面積率 – 屋根面対策面積率 – 外壁面対策面積率 –
見付面積Sb – 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws – m 基準高さHb – m
緑地 – 水面 – 保水性対策面 – 高反射対策面 – 再帰性反射対策面 –